仕事場訪問 その2 ～いつまでも自分らしい人生を～ やさしい住まいの支援ネットの巻

今回は、リフォームチームのモデルともなる存在である「やさしい住まいの支援ネット」を紹介します。

1 支援ネットの成り立ち

「やさしい住まいの支援ネット」は、身体に障害のある人や高齢者に、その人らしい暮らしを実現するための住環境を提案することを目的として、平成13年４月に設立されました。医療・福祉・建築の専門家で構成される正会員が約20名、施工を担当する賛助会員が若干名で、正会員による無料相談の実施、その相談内容について会員全員のさまざまな立場や知識から意見を出し合い提案をしていく検討会の開催、会員の知識向上のための勉強会の開催の３本を柱として活動しています。

2 支援ネットの活動内容

現在、ＡＪＵ自立の家サマリアハウス内にて、原則として毎月第１土曜日午後３時～５時に会員参加の定例会（検討会、勉強会など）、毎月第１・第３土曜日午後１時～３時に無料相談を実施しています。

一方で、介護保険導入に伴い、地方自治体より住宅改修研修会の開催を受託したり、行政関連の会議や講座などへ委員として参加したり、さらには、新聞にコラムを連載するなど、活動の場を広げています。

（内容の一部をﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞより引用）

▲定例会では、住宅リフォームに関する相談について、提案内容を検討したり、勉強会を行ったりしています。

◀提案の基本は現地調査から。専門家が数人チームを組んで伺います。

やさしい住まいの支援ネット 連絡先

〒466-0037

住所 名古屋市昭和区恵方町2-15

（社福）ＡＪＵ自立の家サマリアハウス内

電話／ﾌｧｸｽ 052-879-5551

やさしい住まい 暮らし別 住環境整備ポイント提案

～団塊世代に送る 一人になっても暮らし続ける終の棲家づくり～

販売中！！

平成18年度に愛知県で行われた「住宅ストック有効活用推進モデル事業」の中から、やさしい住まいの支援ネット編集による住宅リフォーム提案冊子ができました。これまでの相談事例の蓄積により、住宅リフォームに関わる幅広い内容が提案されています。ご入用の際は、事務局までご連絡ください。

●連 絡 先 いきいきリフォームあいち事務局又は上記連絡先まで

●頒布価格 １，０００円

リハビリテーションと住宅リフォーム その3

疾患別における住宅リフォームのポイントは？

1. 対象者の在宅における移動レベルが、次の５つのどれにあたるか、あるいはそれらの複合かを正確に把握します。
   - ・屋外歩行（自力・補助具使用） ・屋内歩行（自力・補助具使用・手すり使用）
   - ・車いす使用（自操・介助） ・座位移動 ・寝たきり
2. 住宅リフォームを行う上で必要となる情報の収集を行います。具体的には、次の４点が挙げられます。
   - ・疾患による障害が、先天的（うまれつき）障害か、後天的障害か、成長発達段階における障害か、成人期以降の障害かを把握します。同時に、発症前の生活（ADL）状況をできるだけ詳細に把握します。
   - ・医師やリハビリテーション専門家より、疾患や身体機能に対する今後の変化と、その疾患に対するご本人やご家族の認識について把握します。
   - ・ご本人を中心とした生活環境（人的環境と物的環境）や住宅リフォーム予算および給付制度活用について把握します。
   - ・住宅リフォームに対するご本人やご家族の要望について把握します。
3. ２の項目に関して、ケアマネジャーを中心にして密接な情報交換をしながら、見積りや設計図を作成します。
4. 見積りおよび設計図を元に、ケアマネジャーやリハビリ担当者と最終調整を行います。

これ以降は、普段行っているリフォームと一緒のプロセスだと思いますが、上記の１～４のプロセスをチームアプローチで進めていくことが、疾患別の住宅リフォームを行う上でとても重要になります。特に、２における情報収集の際は、どの４つのポイントにおいても偏りのなく、なおかつ得られた情報を客観的に理解することが施工業者に求められます。以下に、疾患別における住宅リフォームのポイントを簡単に説明します。

【廃用症候群や寝たきりの方】

安静、寝たきり状態が長期間にわたると、全身的な身体および精神機能の低下を引き起こすのが廃用症候群です。廃用症候群になったもとの疾患を理解して、全般的な生活に配慮し、本人の生活機能を向上できるような働きかけを行っていくことがポイントです。

【脳血管疾患】

脳血管疾患では多くの場合、片麻痺（半身麻痺）、ろれつが回らない、言葉が出ない、などの症状が出現します。その症状とそれに伴う生活の不自由さは、出血や梗塞の起きた部位や範囲、合併症の有無、発症した年齢、発症前の生活状況により違いが生じます。しかし、症状の回復後は、再発しなければ進行することはあまりありません。従って、在宅生活における対象者の移動レベルを把握することが、住宅リフォームを検討するうえでの一番重要なポイントになります。特に、脳血管疾患でつたい歩きレベルの方の場合、住宅リフォームを適切に行うことで日中の活動性が向上しさらに心身機能が改善することも考えられますので、慎重かつ冷静な対応が必要です。

【骨折】

骨折治療期間中は特にですが、骨折治癒後においても転倒予防のための住宅リフォームを行うことが一番重要なポイントです。そのための段差解消、床材の変更、トイレまでの動線に関する工夫などを行います。高齢者の転倒による骨折の場合は、できる限りベッド生活での環境を整備することが、再転倒防止につながります。

【パーキンソン病（症候群）】

パーキンソン病は、徐々に進行していく疾患であることと、１日または１週間のうちで症状に変動があることが特徴です。そのため、医療従事者との密接な情報交換を行うことが重要なポイントです。例えば、住宅リフォームを依頼された時は屋内での杖歩行が可能であったとしても、１年もすれば車椅子生活や寝たきりになっている場合もあります。従って、一人一人の症状の進行を見据えた、しかも現状においてどの部分の日常生活が困難になっているかを的確に把握した上での住宅リフォームを行うことが必要であると考えます。

【認知症】

認知症の方は、日常において症状により知的機能の低下や自発性の低下を招いているのが現状です。また、安全に対する判断能力や注意力も低下しています。そこで、知的刺激を与えるような環境を整備することで、認知症の予防や進行を防止することができます。同時に、安全な移動ができるようにするために、段差の解消、滑りにくい床材への変更、照明を明るくする、なども重要なポイントであると考えます。

（次号へ続く）